



投票率向上対策

布田 恵美



**問** 岩沼のみならず、他の自治体でも投票率向上対策にはさまざまな工夫を重ねている。従来のように、有権者を待つ投票所から、有権者がいるところに出向く投票所という発想の転換が、投票率向上につながるのではないかと。シヨッピングセンターや岩沼駅前広場に仮設の投票所を設置することも可能ではないのか。

**選挙管理委員会委員長** 二重投票防止対策が課題であり、システム開発費や通信設備の整備に高額な費用がかかります。その点から仮設の投票所設置については困難と考えます。

**問** 他の先進自治体で既存のシステムを活用して、(シヨッピングセンターなどで)行っている事例もあり、投票率を向上させるためには、新たな切り口で新たな取組も模索していく必要がある。特に駅前広場は多くの乗降客があり、通勤・通学の折に、投票行動につながるしやすいのではないかと。

**市長** 本日に若い人を取り込むということであれば、SNSを活用した新たな投票方法、その辺に切り込んで行かなければ、なかなか投票率は上がらないのではないかと考えます。

**投票と地域活性化運動を**

**問** 参議院選挙時の岩沼係長も運動しての若年層のための投票率向上施策は話題になった。投票と地域の商業活性化を連動させて、地域全体での投票率向上への取組も考えてはどうか。地域の商工会、商工業組織の方と投票率の向上と地域の活性化、暮らしやすい地域づくりに対して、ともに意見交換の場もあるのではないかと。

**市長** 私からそういう話をさせてもらっても一向に差し支えはありません。何かいいアイデアとか、あるいは商工会として商工に寄りながら、投票率を上げるという具体的な話があれば、選管にもお伝えするし、商工会の皆さんと話をすることは結構です。

◎その他の一般質問  
・さらなる地域防災力の向上



健康対策  
(がん検診、がん教育等)

佐藤 一郎



**問** 胃がん検診として、胃の内視鏡検診もある。市内には何力所か受診できる病院もあるので、内視鏡検診を進めてはどうか。

**健康福祉部長** 胃の内視鏡検査は、胃がん検診の精密検査に該当した場合に受けています。集団検診ではなかなか実施するのが難しいと考えます。やるとすれば個別検診に検診の先生の調整、検診団体の調整など現在、実施については大変難しいと考えます。

**問** がん教育は早期発見、早期治療であり、検診を受けるために家庭内でも話をする事になっていくのがどのように考えているのか。

**学校教育課長** 教科書ではあくまで生活習慣の乱れからがんになることもあるという流れです。2020年度から新しい学習指導要領により、中学生からがん教育を行います。教科書の中身もがんの部分を大きく取り上げてくると思います。

**問** 2月定例会で、健幸先進都市として人間ドック、脳ドック及び心臓ドックの受診に対する助成を

考えてはどうかとの質問に、市長からは「せつかくの提案なので、少し勉強してみたいと思います。」と答弁があった。その後検討したのか伺う。

**健康福祉部長** これまで先進事例の取得や検診団体と情報交換を行っています。人間ドックについては健康意識の向上、特定健診の受診率の向上とどのようにつながるか、現段階として助成の実施までは考えていない状況です。

**部位別人間ドック考えて**

**問** 部位別の人間ドックの考えについて、内臓の部分とか脳別に市内の医療機関と情報交換して、がんは早期発見、早期治療(が大切)なので仕組みづくりをお願いしたい。市長の見解を伺う。

**市長** 人間ドックについていろいろ検討を重ねてきました。全員という形は難しいです。部位も含めてもう少し勉強させていただきたいと考えます。

◎その他の一般質問  
・浸水対策